令和８年度

学力向上を図るための全体計画

4. 練馬区立豊玉第二小学校

学　校　教　育　目　標

人間尊重の精神を基調とし、小中一貫教育９年間で目指す豊かな人間性と創造性をそなえ、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる心身ともにたくましい児童の育成を目指す

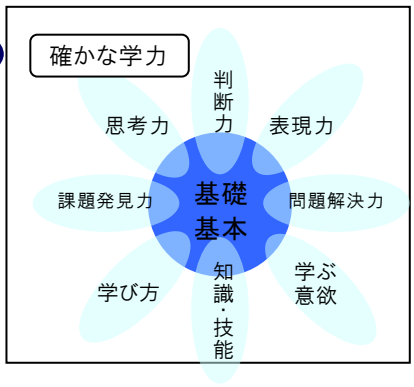
○思いやりのある子ども　　○じょうぶな子ども
○進んでやりぬく子ども　　○よく考える子ども

■■■　学力向上にかかわる学校経営計画　■■■

○児童の実態から指導方法の工夫、評価の改善に努め、学習意欲を向上させ、各教科の基礎的、基本的な内容の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力の育成を図る。
○全国および東京都の学力調査の結果を活用するとともに、普段の授業における児童の習熟状況を把握し、一人一人の児童にきめ細やかな指導の充実を図る。
○各教科の評価規準を活用し、児童一人一人の学習状況を確実に評価する。

本校における確かな学力

自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力



【　各教科の指導の重点　】

・体験的な学習や基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習を通して、学習意欲の向上、学習内容の確実な定着、思考力、判断力、表現力の育成を図る。
・算数科においては、学力向上支援講師を活用し、習熟度別による指導、チーム・ティーチングによる指導を行い、習熟度や興味関心に基づくきめ細やかな指導を行う。
・小中一貫教育に基づく全教科にわたる小中一貫プログラムの開発および指導方法の共同研究を行い、９年間を見通した学力の向上を図る。
・国語科における伝え合う力の育成および各教科等の特質に応じた言語活動の指導の工夫による思考力、判断力、表現力の育成を図る。

道徳科の指導の重点	外国語・外国語活動の指導の重点	総合的な学習の時間の指導の重点	特別活動の指導の重点	生活指導の重点	進路指導の重点
学校教育全体を通じて，それぞれの教育活動の特質に応じて行う道徳教育と，それらを補充，深化，統合する道徳科の充実を図り，道徳性を育成する。 道徳的な課題に一人一人の児童が自分事として向き合い、多様な考えに触れながら自己の生き方についての考えを深める道徳科の指導を推進する。	外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ，聞く力などを育てる指導の充実を図る。 日本語とは異なる外国語の音に触れ，外国語を注意深く聞いて相手の思いを理解しようとしたり，他者に対して自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感したりしながら，積極的に自分の思いを伝えようとする態度を育成するための指導の充実を図る。	体験的な学習に取り組み，教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習，探究的な活動となるよう充実を図る。 体験活動や調べる活動等を通し，必要な情報を集め得られたものを整理・分析したり判断したりしながら，既習の知識や経験と結び付け，自分の考えや意見，発見したことなどをまとめ，表現する指導の充実を図る。	児童の自主的，自立的な活動を重視し，集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育て，生き方についての考えを深め，自己を生かす能力を養う指導の充実を図る。 学校行事を通して，望ましい人間関係を形成し，所属感や連帯感を深め，公共の精神を養い，協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を育てる。	児童一人一人の人格を尊重しながら，規範意識を育むなど社会的資質や行動力を高める指導の充実を図る。 児童の実態を把握し，いじめや不登校等の未然防止に努め，学校全体で組織的な指導を行う。学校教育相談機能を充実させ個に応じた指導を推進する。	各教科等の指導を通じて，学習課題や活動を選択したり，自らの将来について考えたりする機会の充実を図る。 学級活動等において，自己の悩みや葛藤，将来の夢などの課題を積極的に取り上げ，考えを深める指導の充実を図るとともに，家庭や地域と連携した指導を行う。（キャリア教育の充実）

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・方法の工夫	教育課程上の工夫	校内における研究や研修	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
○個に応じた学習の充実 ・補充的な学習や発展的な学習を設定していく。 ・算数の習熟度別少人数指導を通して、児童の実態に合わせた学習を進める。 ・校内研究での成果や各教科、領域での研究を活かし、指導方法の工夫・改善を目指す。 ○授業改善推進プランの活用	**○個に応じた指導の充実** ・一人一人に応じたきめ細やかな指導を行うため、第３学年以上の算数科においては、学力向上支援講師を活用し、習熟度別指導を充実させる。 ・地域未来塾を活用し、第２～４学年以上は、算数の補習学習ができるようにする。	**○主体的に「問い」を深める児童の育成** ・問いを自らもち、学び方を自分で選び、協働的に活動する中で深い学びの実現に向けた授業研究を進める。 **○ＩＣＴ活用研究** ・授業におけるタブレット端末の活用方法について、授業での積極的な実践や ICT 研修を通して、広めていく。 ・プログラミング教育について、教科横断的な視点で推進する。	**○基礎的・基本的学力の定着** ・評価規準を活用し、指導と評価が一体となった教科指導計画に基づき定着の状況を確認し、一人一人に応じたきめ細やかな指導を行い、学力の向上を図る。 **○授業における学習状況の把握** ・授業における学習状況を小テスト、机間指導、ノート指導、発表等を通してきめ細やかに把握し、個に応じた指導の充実を図る。	**○学校行事および授業公開** ・学校公開、学校行事、道徳授業地区公開講座等、常に学校を開くとともに、アンケートなどから期待や要望を受け止め、授業改善に生かす。 **○学校評価の活用** ・学校評価の結果を分析するとともに学校運営協議会で説明し、学校の自己評価と合わせて教育課程の改善および授業改善に生かす。	**○乗り入れ授業の工夫** ・中学校の施設等の特色を生かし、第5・6学年の児童が興味関心を高め中学校への円滑な接続と9年間を見通した系統的な授業を推進する。 **○小中連携における研究** ・「目指す 15 歳の生徒像」を柱に、授業改善を図り、主体的に学ぶ意欲を高める。

指導内容・方法の工夫

国語科指導の工夫

「言語活動」の指導の充実

国語科の目標には、「言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成するとある。また、知識・技能を修得するのも、これらを活用し課題を解決するために思考し、判断し、表現するのもすべて言語によって行われるものであり、これらの学習活動の基盤となるのは、言語に関する能力であることから、言語に関する能力を育成する中核的な教科である国語科を中心として言語活動の充実を図る。

■■■授業改善の具体策■■■

国語科の学習における「話すこと・聞くこと」「書くこと」および「読むこと」の各領域において、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探求することのできる言語の能力を身に付けさせるため、日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論など、学校や児童の実態に応じて言語活動の充実を図る。

≪各領域における言語活動の具体例≫

	話すこと･聞くこと	書くこと	読むこと
第 1･2 学年	紹介など伝えたいことを話したり、聞いて感想を述べたりする。	紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりする。	事物の仕組みを説明した文章や科学的な内容の本を読み、分かったことや感想を述べる活動。
第 3･4 学年	説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする。	疑問に思ったことを調べて報告する文章を新聞に書いたり、お礼の文章を手紙に書いたりする。	記録や報告の文章を読み、考えたことや意見を述べる。
第 5･6 学年	調べたことやまとめたことについて討論などをする。	事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く。	物語や伝記を読んで内容を説明したり、考えたことを伝え合ったりする。

「読むこと」の指導の充実

文章の詳細な読み取りに陥ったり、叙述に基づかない「思いつき発言」に終始してしまっては、意図的・計画的な指導は展開されず、子どもたちの「読む能力」を育むことは難しい。「読む能力」を育むことは、現在、国を挙げて取り組んでいる「読解力」の育成にもつながるものであるので、指導の充実を図る。

■■■授業改善の具体策■■■

「読むこと」で身に付ける事項は、学習指導要領に以下のように示され、重点的に取り扱う必要がある。「読解力」を育むためには、教材文が「分からない」から「分かる」へ、更に、「分かる」から「より分かる」ように子どもを変容させていくことが必要である。そのために、「文章を読み解く視点」を教材文に合わせて意図的・計画的に示し、深い読解ができる授業を行う。

≪読むことで身に付ける事項≫

第 1･2 学年	第 3･4 学年	第 5･6 学年
事柄の順序　場面の様子	段落相互の関係　中心となる語　要約	事実と感想･意見の関係　要旨の把握
ア　時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 イ　場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。 など	ア　段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 イ　登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。 など	ア　事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 イ　登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 など

社会科指導の工夫

資料活用の段階的指導

社会科においては、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること，社会的事象の意味，意義を解釈すること，事象の特色や事象間の関連を説明すること，自分の考えを論述することを一層重視されており、系統的、段階的な資料活用能力の育成を図る。

■■■授業改善の具体策■■■

各学年の段階に応じて、観察、調査したり、地図や地球儀、統計、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用したり、社会的事象の意味や働きなどについて考え、表現したりする力の育成するための指導の充実を図る。

第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
・資料から必要な情報を読み取る ・資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える ・必要な資料を収集する	・資料から必要な情報を読み取る ・資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える ・必要な資料を収集する	・資料から必要な情報を読み取る ・資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える ・複数の資料を関連付けて読み取る ・必要な資料を収集したり選択したりする ・資料を整理したり再構成したりする	・資料から必要な情報を的確に読み取る ・資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える ・複数の資料を関連付けて読み取る ・資料の特徴に応じて読み取る ・必要な資料を収集・選択したり吟味したりする ・資料を整理したり再構成したりする

問題解決の過程を意識した指導

「問題」「予想」「調査」「結果」「結論」という問題解決的な過程を意図的に授業に位置付ける。ワークシートやノートを使用する際も「問題」「予想」「調査」「結果」「結論」などの記述を積極的に取り入れさせるようにし、問題解決の過程を児童に意識付ける指導を行う。

算数科指導の工夫

問題発見・解決能力を身に付けさせる指導

算数科においては、問題を解決したり、判断したり、推論したりする過程において、見通しをもち筋道を立てて考えたり表現したりする力を高めていくことを重要なねらいとしている。既習の学習内容を基に考えさせたり、既有経験を生かして問題解決させたり、体験的に理解することを通して自ら課題を見付け、主体的に問題を解決する能力を身に付けさせる指導を行う。

≪数学的な考え方の育成≫

既習事項を組み合わせて新しい概念を形成する時に用いる考え方

- 内容（単位の考え、式など）
- 方法（帰納、類推）
- 態度（筋道を立てた行動）

≪学び方の指導≫

自力解決体験

課題をつかむ → 見通しをもつ → やってみる → 説明する → 振り返る

■■■授業改善の具体策■■■

「課題をつかむ」「見通しをもつ」「やってみる」「説明する」「振り返る」などの問題を解決する過程を意識的に授業に位置付け、見通しをもち筋道を立てて考える力を育成する。また、児童が具体物や半具体物を用いたり、言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いたりして、自分の考えたことを表現したり、友達に説明したりする作業的・操作的・体験的な学習活動を取り入れ、テープ図や線分図、数直線などを操作的な「問題解決のアイテム」として使いこなせるよう、継続的、発展的に指導を行う。

理科指導の工夫

「科学的な思考力・表現力」を育てる指導

≪各学年で育成する科学的な思考力≫

第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
比較	関係付け	条件制御	推論

理科において、各学年で重点を置いて育成すべき科学的な思考力は右のように示されており、理解においても問題解決的な学習が重視されている。児童が自然の事物・現象に関心をもち、そこに問題を見いだし、解決する方法を考え、観察・実験などを行うことにより結果を得て、解決過程や結果について相互に話し合う中から、結論として科学的な見方や考え方をもつことができる指導を行う。

■■■授業改善の具体策■■■

学習ノートやワークシートを使用する際にも、「問題」「予想」「実験」「結果」「結論」などの記述を積極的に取り入れるよう働きかけ、問題解決の過程を児童にも意識付ける指導を行う。また、何が同じで何が違うのか(比較)、変化を引き起こす要因は何か(関係付け)、どの条件を変えて比べるのか(条件制御)、いくつかの結果から分かることは何か(多面的追求)など、学年に応じて児童に働きかける視点を明確にし、科学的な思考力を育む指導を行う。

また、観察・実験において、結果を表やグラフに表したり、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化したり、モデル図に表したりして表現することを重視し、言語活動の充実を図る。さらに、問題解決的な学習方法について、中学校との接続を図る。

≪理科における問題解決の過程≫